

基本課題8 家庭生活と職業生活その他の社会における活動の両立の支援(課題17~19)

課題17 仕事と家庭・地域生活の両立支援と働き方の見直し

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	地域振興課所見	審議会の意見・評価	
44	事業所における育児・介護休業制度の普及啓発	情報収集、調査、研究	商工課	新潟労働局の育児・介護休業制度の情報を提供するため、ホームページに掲載する。	商工課ホームページの新潟労働局「育児・介護休業法とは」の項目から、概要と支援制度に分けてリンクさせ、情報提供をした。		A	なし		A
45	労働時間短縮についての情報提供・啓発	情報収集、調査、研究	商工課	新潟労働局の労働時間短縮についての情報を提供することができるように情報収集し、ホームページで提供する。	【計画変更:追加】 商工課ホームページから新潟労働局にリンクし、労働時間に関する情報を提供した。 <u>広報さんじょう11/16号で過重労働相談など「全国一斉無料相談ダイヤル」の周知をした。</u>		A	なし		A
46	ファミリー・フレンドリー企業の普及啓発	情報収集、調査、研究	商工課	仕事と育児・介護とを両立している企業の情報を収集し、ホームページに掲載する。	商工課ホームページのトピックス欄に「10月は仕事と家庭を考える月間」を周知するとともに、(財)21世紀職業財団にリンクすることで、「ファミリー・フレンドリー企業とは」と「表彰受賞企業」についての情報を提供した。		A	なし		A

課題18 子育て支援の充実

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	地域振興課所見	審議会の意見・評価	
47	子育て支援サービス及び保育サービスの充実	次世代育成支援行動計画の実施	社会福祉課	「三条・栄・下田次世代育成支援行動計画」の取組状況について、計画に掲載している事業の実施及び目標の達成に向けて進捗管理を行い、子育て支援関係事業の充実を進める。 進捗状況は、ホームページで公開する。	次世代育成支援行動計画の平成18年度実施状況について、関係各課の取組をまとめ、市ホームページに掲載して公表した。 また、今年度からすべての公立保育所において、延長保育を拡充し、午前7時から午後7時までの12時間保育を実施した。		A	なし		A
48	市役所内の子育て事業における連携の強化	子育て支援事業連絡会議の開催	社会福祉課 健康推進課 生涯学習課 各公民館	昨年度から実施している「子育て支援関係事業所管課連絡調整会議」を継続して開催し、作成を進めてきた「子育てガイドブック」を発行し、市民に配布する。 また、子育て支援に関する事業の連携・調整について、効率的に事業を実施できるよう検討を進める。	「子育て支援関係事業所管課連絡調整会議」を継続して開催し、これまで8回開催した。 この中で、「子育てガイドブック」の発行について協議を進め、今年1月8日に関係機関等へ配布した。	毎月1回が開催できなかった。 組織機構の見直しに伴い、子育て関係の各課の連携が今までに比べ容易となるが、情報交換等は引き続き実施したい。	B	なし		B
49	子育て支援ネットワークづくりの支援	民間団体の子育て支援の取組状況の情報収集	社会福祉課	子育て支援に関する民間団体の取組状況を把握し、子育て支援センターなどで市民に引き続き情報提供する。	平成20年度開始予定の三条市ファミリーサポートセンター事業の連携を進める上で、民間団体との情報交換を実施する予定であったが、団体個別から情報を収集することとなり、ネットワークづくりまでには至らなかった。	既存の民間団体の情報を収集し、市民に周知すること、また、活動状況を把握し、市の事業展開に生かすことから、今後も情報交換等を積極的に行っていききたい。	B	ネットワークの構築の支援を整えてはどうか。		B

50	施設ボランティア(保育ルームの設置時のヘルパー)及び子育てサポーターの養成	子育てサポーター養成講座の実施	生涯学習課	対象:子育て支援に関心がある方 時期:9月~10月(全7回) 内容:子育てに関わる保護者のサポーターをする子育てサポーターを養成する。 20名	対象:子育て支援に関心がある方 時期:10月~11月(全7回) 内容:子育てに関わる保護者のサポーターをする子育てサポーターを養成した。 地域振興課と連携し、男女共同参画について説明した。 参加者 20名(延べ109名)		A	なし		A
51	子育てに関する学習機会の提供	子育て講座の充実	社会福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援センターで子育て講座を開催し、子育てに関する知識・情報の提供を図るとともに、講座内容の充実を図る。 子育て支援センター(4ヶ所) 各センターで年4回開催 各回 40名 	【計画変更:内容追加】 田島・あいあい・千代が丘各保育所、きらきら保育園に加え、7月から本成寺保育園において子育て支援センター事業を実施し、子育て講座を開催している。講座の内容によりバラつきはあるものの、平均して40名前後の参加者を得て開催することができた。 <u>広報さんじょう毎月16日号に講座等のイベント情報を掲載して、周知の徹底に努めた。</u> 【3月末現在】 実施回数 63回 講座の内容 親子ビクス、講演会、救急法など	目標人数を達成できなかったが、引き続き、広報さんじょう毎月16日号に講座等のイベント情報を掲載して、周知の徹底に努めた。	B	なし		B
		初めてのパパとママの子育て学級の実施	健康推進課	対象:妊娠7か月の初妊婦と夫 時期:毎月1回 内容:子どもの発育と父親、母親の役割、沐浴実習等 夫婦の受講率(目標) 30%	【3月末現在】 実施回数:12回 対象者数:376組 受講者数120組 受講率:31.9%		A	引き続き、夫婦での参加率を上げて、全体の受講率も上げてはどうか。		A

51	子育てに関する学習機会の提供	しみん食育のつどいの実施	健康推進課	対象:市民 時期:8月25日 内容:市民一人一人が自分の健康は自分で守るという考えから、食の大切さの啓発を図る講演会を開催する。 250名	参加者:259人 ・学校給食試食会 ・基調講演 演題「わが町の食育～全国初『朝ごはん条例』の町から～」 ・パネルディスカッション テーマ「おいしく食べるゆたかに生きる ～食を通してどのような子どもに育てたいか～」	パネラーから「父親の視点からの意見」があり、参加者から好評であったが、若い世代の親の参加が少なかった。来年度は周知方法や内容を検討していきたい。	B	評価はAでよいのではないかと。	食の安全面だけでなく、男女共同参画の視点が入っているかを再確認すること、学校単位の開催なども今後検討するようにしてはどうか	A
		就学時子育て講座	生涯学習課	対象:小学校に入学する児童の保護者(市内小学校24校) 時期:10月 内容:家庭教育について考える講演会を開催する。 800名	対象:小学校に入学する児童の保護者(市内小学校24校) 時期:10月 内容:就学時期の子どもとのふれあい方やしつけの仕方等 参加者 978名	アンケートの集計を行い、講座の主な参加者である女性が、子どもとのかかわり方や今後の自分自身に、自信をもつことができているか見ていきたい。	A	受講率を上げるよう周知の方法を工夫してはどうか。		A
		子育て講座の実施		対象:小学生の保護者 時期:12月 内容:親子のふれあいやしつけ、コミュニケーションの取り方等をPTAと連携し講演会を開催する。 300名	親子のふれあい方や、学校とのコミュニケーションの取り方等について、PTAと共催し講演会を開催した。 参加人数…174名(回収アンケート80枚のうち、男性50名、女性30名) 会場…中央公民館大ホール	市の広報紙・ホームページへの掲載、報道機関への情報提供を男女共同参画の視点で考慮しつつ、広く、早めにしていきたい。	B	受講率を上げるよう周知の方法を工夫してはどうか。		B
		妊娠期子育て講座の実施	生涯学習課	対象:妊娠3か月の妊婦と夫婦 時期:6月・9月・12月・3月 内容:親子のふれあいやしつけ、コミュニケーションの取り方等の講演会を開催する。 述べ140名 (夫婦50組+40名)	【3月末現在】 夫婦58組+25名 6月/男性12名・女性19名(夫婦12組) 9月/男性6名・女性16名(夫婦6組) 12月/男性12名・女性14名(夫婦12組) 3月/男性28名・女性34名(夫婦28組)		A	引き続き、夫婦での参加率を上げて、全体の受講率も上げるよう周知方法などを工夫してはどうか。		A

51	子育てに関する学習機会の提供	家庭教育講座等の実施	生涯学習課 (各公民館)	対象:乳幼児から思春期の子どもの保護者 内容:家庭教育のあり方や子どもとの向き合い方などを、地元の保育所・小中学校やPTAと連携して講座等を開催する。 講座数:18講座	15講座開催した。(学校との共催ができないところがあったため)	父親の参加率が少なかったことから拡大を図りたい。	A ↓ B	なし		B
52	保育ルームの設置	保育ルームの設置	地域振興課 健康推進課 生涯学習課 各公民館	より多くの方が安心して各講座、フォーラム等に参加してもらえるよう保育ルームを設置する。 また、講演会開催時、保育ルームの設置がなかった課があり、次回から設置するよう地域振興課から指導をする。 また、予算要求時に合わせ、保育ルームを設置するよう各課宛に文書で周知する。	各講座、フォーラム等の開催時に保育ルームを設置している。 また、保育ルームを設置していなかった課に指導した。(「市長とのふれあいトーク」や「環境フォーラム」など。「市長とのふれあいトーク」は年度途中から保育ルームを設置し、利用があった。) 予算要求時に合わせ、保育ルームを設置するよう各課宛に文書で周知した。	保育ルーム設置が必要な講座等には必ず設置するよう調査、点検を行う。	A	この取り組みを職員が意識し、実行することで参加しやすい状況を作る。		A

課題19 家庭生活における男女共同参画の促進

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	地域振興課所見	審議会の意見・評価	
53	男女共同参画意識を高める家庭教育の推進	子育て講習会の実施	社会福祉課	対象:市民 時期:7月 内容:児童虐待防止を目的に、市民を対象とした親と子の上手な関わり方を内容とした講習会を開催する。 100名	子育て支援の側面から虐待防止の啓発を行うことを目的に、「子どもの可能性を信じて…今、親としてできること」をテーマに講演会を開催した。 参加者61名。	開催時期を7月に変更して、子育て支援の側面から講演会を開催したが、予想以上に参加者が少なかったことから、来年度はテーマを工夫して開催する。	B	来年度は、ターゲットを絞ったり、テーマの切り口を変えるなどして計画してはどうか。	テーマを絞って日頃悩んでいることや困っていることをテーマにした講演会にしてはどうか	B (定員に満たなかったということで)

53	男女共同参画意識を高める家庭教育の推進	初めてのパパとママの子育て学級の実施	健康推進課	施策No51に同じ	施策No51に同じ		A	施策No51に同じ		A
		家庭教育講座(乳幼児期の子ども保護者対象)の実施	生涯学習課(各公民館)	施策No51に同じ	施策No51に同じ		A	施策No51に同じ		A
		家庭教育講座(児童期の子ども保護者対象)の実施		施策No51に同じ	施策No51に同じ		A	施策No51に同じ		A
		家庭教育講座(思春期の子ども保護者対象)の実施		施策No51に同じ	施策No51に同じ		A	施策No51に同じ		A
		一日家庭学級の実施	生涯学習課(各公民館)	対象:乳幼児の保護者 時期:2月 内容:家庭の中で保護者が男女共同参画の意識を持って子どもを養育する大切さを学ぶ。 80名	対象:乳幼児を持つ父母、祖父母 時期:5月30日、11月17日 受講者 105名		A	なし		A
54	男性の家事、子育て、介護等の学習機会の提供 重	「日曜学校 家事入門編(仮称)」講座の実施	地域振興課	対象:市民 時期:未定 内容:家事を中心とした生活能力を楽しみながら身につけ、家事への参画意識を高める。 20名	・コミュニティFM-4/5、9/13放送 ・日曜学校「家事入門講座」 時期:10月から2月まで 申込者:22名(男性:12名、女性:10名) 内容: 1回目:コミュニケーション能力の向上 2回目:マナー学 3回目、6回目:調理実習 4回目:マナーについて 5回目:アイロン、衣服の収納などについて	参加者からは好評だった。ただし、連続講座となると、月1回とはいえ参加率が良くない。講座の開催方法を見直し、公民館事業とのすみ分けなどを再検討したい。	A	なし		A

54	男性の家事、子育て、介護等の学習機会の提供	初めてのパパとママの子育て学級の実施	健康推進課	施策No51に同じ	施策No51に同じ		A	施策No51に同じ		A
		認知症予防啓発教室の実施		対象:地域住民、認知症高齢者の介護者、家族 時期:通年 内容:市内10ヶ所の在宅介護支援センターに委託し、地域住民に向けて認知症予防についての知識の普及、認知症高齢者に対する接し方や介護方法等について指導を行う。特に男性の参加について働きかける。 600名(150名男性参加目標)	【3月末現在】 ・実施回数 29回 ・参加者数 560人(うち男性129人)		B	男性の受講率を上げて、全体の受講率も上げていけるよう支援センターと検討してほしい。		B
		男の料理教室の実施		対象:市内在住の男性 時期:6月から11月 内容:基本的な食事づくりを教えることで、地域の食生活改善だけでなく、料理は女性という固定観念を捨て、男性も家庭の中で、楽しみながら家事等に参加できるように支援する。 ・第一中学区(3回実施) 15名 ・第三中学区(2回実施) 15名	第三中学校区 6月14日 12人、10月11日 7人 第一中学校区 10月 3日 8人、10月25日 8人、11月14日 6人	参加者は楽しみながら調理をしており、家族にも料理を振舞うなどしていた。ただ、参加者が予定より少なかったため、周知を考える必要がある。	B	チラシを対象地区に配布したり、時間帯、曜日等の検討も含め、より多くの人に参加してもらえよう工夫して欲しい。	父と子向け「お父さんと子供の料理教室」など子供との時間を共有するような内容にしてはどうか。また、教室ではなく、アウトドアなど企画の練り直しが必要。	B
		男の料理入門教室の実施		生涯学習課(4公民館)	対象:市内在住の男性 内容:男性も家庭の中で、楽しみながら家事等に参加できるように家庭料理を学ぶ。 講座数:4講座	【計画変更:追加】 大崎公民館でも開催し、全部で5公民館で実施した。		A	なし	「団塊の世代向け」も企画してはどうか